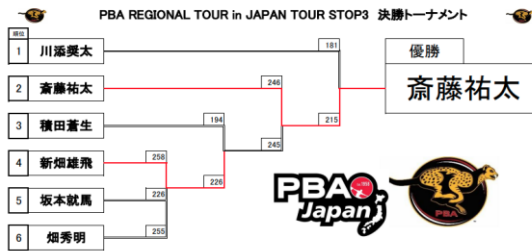


ついに栄冠！初優勝！！
無冠の帝王 返上
齋藤祐太選手(JBC)



いつからかリージョナル「無冠の帝王」とささやかれていた。何度も何度も優勝を目の前にし、あと一步、手の届くところで惜敗。その齋藤が、ついに栄冠を手にした。

プロ・アマの実力者が入り乱れるリージョナル。予選は6G、各40名3シフト行われそれぞれ12名、計36名が準決勝に進んだ。女子選手も15名参加し、中嶋由美(JPBA)・前屋瑠美(JPBA)が見事予選を突破した。前年日本女子選手権覇者の土屋佑佳も参戦したが惜しくも予選で散った。

決勝トーナメントに勝ち上がったのはこの6名。1位:川添奨太(JPBA)、2位:齋藤、3位:新畑雄飛(一般)、4位:積田蒼生(JBC)、5位:坂本就馬(JPBA)、畑秀明(JBC)。まず5位6位決定戦、新畑・坂本・畑の対戦。さすがここまで来るとストライクラッシュ。8フレ坂本まさかのガターで戦線離脱。新畑・畑のしびれる展開は10フレ迄もつれた。畑が最終フレーム、2投目ストライクを持ってくれば勝利確定だったが惜しくも9本、新畑がからくも逃げ切った。

そして4位決定戦。若干17歳、積田は229アベで3位に躍り出ている。リージョナルのエースとも言える新畑を迎え撃つ。前半フォースの新畑、ダブルにスペアで5フレ目の積田は10ピンミス、これが最後まで響き、226vs194この日好調の新畑が勝利した。さて3位決定戦。過去幾多の対戦があるこの二人。名勝負が予想された。齋藤はこの大会の1週間前、JBC会長杯年齢別選手権で優勝し、好調さを維持したままリージョナルにのぞんでいた。予選Bシフトも235アベの1位で通過。準決勝も2位で対戦を待つ。一方の新畑も準決勝238アベで、4位通過、決勝トーナメントも勝ち上がり勢いがある。7フレ迄、新畑が1フレスペアから6連続ストライク、約20ピンの差をつけて有利に進んでいた。しかし後半、ストライクが止まった新畑に対し、齋藤が追いつける5連続ストライク、ついに9フレで全くの同点。先に投げ終えた齋藤が246ピンで待つ。新畑最後の投球、もし、ストライクなら同点。しかし、8番ピンが残り246vs245。わずかに1ピン差で齋藤が勝利した。いよいよ決勝戦。1位で待つ川添は予選も1位、準決勝も246アベで堂々の1位。過去リージョナルも5回優勝と、王者の風格。一方、初優勝を狙う齋藤は気迫に満ちていた。しかし、先の新畑戦とは違い、レーンの変化が待っていた。齋藤がスタートこそダブルを持ってきたが、前半の川添は単発のストライク1個のみ。ストライクが出ず、お互いにレーンアジャストに苦しんでいた。そして川添、6フレ痛恨のスペアミス。その後も単発のストライクで苦しむ川添に対し、8フレ9フレ待望のダブルを持ってきた齋藤。勝利の女神は大きく齋藤に傾いた。215vs181予想外の大差で、齋藤がついに念願の初優勝！



準優勝:川添奨太



3位:新畑雄飛



「リージョナル発足から参加していて、悔しい思いを何度もしてきました。ここまで本当に長かったが、素直に嬉しい」負けて悔し涙を何回もみた齋藤だが、今日は晴れ晴れしい笑顔を見せてくれた。今年の齋藤には大きい目標がある、KUWATAcupの2連覇。さらに4月プロテストに挑戦。プロになって大きく活躍することを誓ってくれ、「プロになってもPBAリージョナルは出続けます。」と、力強く語ってくれた。

●言葉では言い表せない痺れる戦い。この緊張あふれる戦いを、もう一度観たい方は、ユーチューブ「PBAJapan」で検索してご覧ください

https://www.youtube.com/watch?v=BFcKncHR_fm